



市町村担当者会ありがとうございました

雨に映える紫陽花の花も美しい季節になりました。過日は、生涯学習・社会教育、生涯スポーツ振興、社会人権教育の3分野の担当者会を開催したところ、市町村担当者のみなさんにおかれましては、ご多用の中、ご参加いただきありがとうございました。昨年度はオンライン開催でしたが、本年度は参集で行うことができ、お互いの取組から学びあったり、情報交換からアイデアを共有したり等の時間にしていただけたのではないかと思います。担当者会を通してそれぞれの分野でお伝えしたいことを記載しましたので、ご覧いただけると幸いです。

<社会教育>

生涯学習・社会教育担当者会では、活動計画を元に、「どのように人を集めるか」「若い世代にどのように参加してもらうか」を主なテーマに情報交換をしました。コロナが落ち着いてきて様々な活動が参集形式で開催できる状態になってきたものの、この3年間活動できなかったことで、なかなか住民に集まってもらえない、企画・運営のノウハウを知っている職員がいないなど共通の悩みも出されました。



しかし、こういう状況だからこそ、内容や運営の仕方を見直すチャンスだ、という前向きな意見もありました。地域のお祭りの企画に中学生～大学生を含む10～20代のみなさんに関わってもらう、小中学生のリーダー研修会の運営に高校生以上のみなさんに関わってもらうよう、ユースリーダー研修会を行う、など若い方に参加してもらうだけでなく、企画・運営に携わってもらうという取り組みを始めている地域もあります。

各地域に生涯学習・社会教育の場を必要としている方がたくさんいます。地域の方の学びの場、つながりの場を一緒に作っていきましょう。



<生涯スポーツ振興>

担当会で話題になった『中学部活動の地域クラブへの移行』について、6月14日（水）に「第2回長野県地域スポーツ・文化芸術活動推進連絡協議会」が開催されました。この会で示された資料は、県教育委員会スポーツ課ホームページに掲載されています。

地域クラブへの移行については、市町村によって状況が違うため、一律に考えて行くことは難しいかと思います。ただ、共通意識として持ちたいことは、この地域クラブへの移行をきっかけとして、地域のスポーツ環境に目をむけ、地域のスポーツ環境の未来について考えるということです。市町村ごと現状の課題は何なのか。その課題を解決するためには、どんな方法があるのか。「これが正解！」というものはありません。その地域が「なぜ、その方法を選んで取り組んでいるのか」という、そうしている訳をお互いに共有し参考にしていきましょう。

いつでもご相談ください。

コロナの影響で、今までできなかった活動が再び動き出す時を迎えています。大変なこともあると思いますが、担当者の方々が、「コロナ前に課題だったことを改善して始めようと思っています」とお話しされている様子に触れました。「ピンチは、チャンス」という言葉のように、コロナで苦しかった日々をチャンスに変えて動き出そうとしている皆さんの力になれるように私たちもがんばります。



<社会人権教育>

今年度の計画されている市町村の社会人権事業について情報交換を行いました。講演会の講師について、イベント開催の工夫、人権教育の視点を取り入れる公民館講座、身近なところから人権について考えられるような映画上映等、特色のある市町村の取組を聞くことで、有意義な情報交換になったという感想を多くいただきました。



また引き続き行われた市町村人権教育連絡協議会では、学校の人権教育担当職員と市町村の社会人権担当者が顔を合わせ、事業説明や人権教育推進計画について情報交換を行いました。学社連携が進むことで、子どもも大人も共に人権について考えるきっかけになります。人にやさしいよりよい地域づくりに繋げてほしいと思います。